

平成28年度

岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書

(平成27年度事務事業対象)

平成28年8月

岩出市教育委員会

はじめに

岩出市教育委員会では、第2次岩出市長期総合計画に掲げたまちづくりの基本方針である「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現に向け、学校教育の充実並びに青少年健全育成、生涯学習・スポーツの推進及び文化・芸術の振興に努めてまいりました。

また、平成27年度の重点目標として、「生きる力と人間力の育成」を掲げ、その推進に当たっては、家庭や地域社会との連携協力を図りながら、取り組んできたところです。

本報告書は、本市教育委員会の課題や、今後の取組の方向性を明らかにし、教育行政の一層の推進を図るとともに、市民から信頼される教育行政を推進するため、平成27年度に実施した事務事業の点検評価をまとめたものです。

点検評価の結果を踏まえ、よりよい教育の実現を目指し、教育行政の充実に努めてまいります。

平成28年8月

岩出市教育委員会

目 次

I	岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価の報告について	
1	点検・評価の経緯	1
2	点検・評価方法について	1
3	教育委員会評価委員	1
4	教育委員会事業の概要	2
	【教育総務課】	
(1)	豊かな学力の育成と体力の向上	2
(2)	安全・安心な教育環境の整備・充実	3
(3)	安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上	4
	【生涯学習課】	
(1)	青少年の健全育成	4
(2)	生涯学習の推進	5
(3)	文化・芸術の振興	7
(4)	人権尊重の推進	7
	【岩出図書館】	
(1)	子ども読書活動推進事業	7
(2)	図書館運営事業	8
(3)	図書等購入事業	8
	【民俗資料館】	
(1)	民俗資料館の充実	8
(2)	文化・学習基盤の確立	9
II	各課の事業に対する点検評価の結果について	
1	点検評価結果	
	【教育総務課】	
(1)	豊かな学力の育成と体力の向上	10
(2)	安全・安心な教育環境の整備・充実	13

(3) 安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上	15
--------------------------	----

【生涯学習課】

(1) 青少年の健全育成	16
(2) 生涯学習の推進	17
(3) 文化・芸術の振興	20
(4) 人権尊重の推進	21

【岩出図書館】

(1) 子ども読書活動推進事業	22
(2) 図書館運営事業	24
(3) 図書等購入事業	25

【民俗資料館】

(1) 文化・芸術の振興	26
--------------	----

2 教育委員会事務事業評価一覧表

【教育総務課】

事務事業評価一覧表	28
-----------	----

【生涯学習課】

事務事業評価一覧表	31
-----------	----

【岩出図書館】

事務事業評価一覧表	34
-----------	----

【民俗資料館】

事務事業評価一覧表	35
-----------	----

Ⅲ 関連資料

○平成27年度教育委員会事務事業評価に関する意見書の提出について	36
○岩出市教育委員会評価等実施要綱	40

I 岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価の報告について

1 点検・評価の経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、PDCA のマネジメントサイクルを確立すべく、平成27年度における岩出市教育委員会事務の管理及び執行状況の点検・評価について第2次岩出市長期総合計画に基づき実施した事業のうち、主な36事業について点検・評価を実施した。

2 点検・評価方法について

点検・評価の方法については、教育総務課、生涯学習課、岩出図書館、民俗資料館の2課2館で、各事業をその目的ごとに施策としてまとめ、施策単位で評価を実施した。

評価については、4段階「a：期待以上」、「b：期待どおり」、「c：やや下回る」、「d：期待以下」の基準を設けた。

評価の今後の方向性については、「廃止」、「見直し」、「完了」、「継続」の4つの基準を設けた。

点検・評価の報告書については、平成28年7月13日と平成28年8月3日、2回の教育委員会評価委員会を開催し、本市の教育に関し学識経験を有する方々に意見、助言をいただき、確認のうえ取りまとめた。

各事業については、平成27年度教育委員会事務事業評価一覧表のとおりである。

3 教育委員会評価委員

氏 名	職 名
富永 茂郎	元岩出市青少年育成市民会議本部委員
土生川 政幸	元岩出市立小学校長
大西 利雄	社会教育委員議長

4 教育委員会事業の概要

岩出市教育委員会では、第2次岩出市長期総合計画の基本方針である「活力あふれるまち ふれあいのまち」の実現を目指し、「学校教育の充実」「青少年の健全育成」「生涯学習の推進」「文化・芸術の振興」「国際交流の推進」「人権尊重の推進」を主要施策として掲げ、教育総務課、生涯学習課、岩出図書館、民俗資料館の2課2館において各事務事業を実施した。

教育総務課においては、「(1)豊かな学力の育成と体力の向上」、「(2)安全・安心な教育環境の整備・充実」、「(3)安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上」の3つの項目を重点事業として実施した。

(1) 豊かな学力の育成と体力の向上

(ア) 学力・体力向上対策実践事業

「いわでアスリートクラブ事業」では、陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成が図られた。

登録者は、岩出市内の小学校3年生から6年生を対象に284名。

「適応指導教室事業」では、嘱託学校教育指導員2名を配置し、心理的要因等により学校生活に適応できず登校できない児童・生徒に対する教育相談や生活・学習支援を行うほか、指導員と担任教師が連携を深めることにより、在籍校への復帰を図っている。

入室者は、平成26年度は中学生20名（うち3名は体験者）であり、平成27年度は小学生1名、中学生21名（うち5名は体験者）と前年度に引続いて増加している。

なお、中学3年生の入室者13名のうち7名が全日制課程の高校へ、5名が定時制課程の高校へ、1名が特別支援学校高等部へ進学している。

「確かな学力育成のための実践研究事業」では、全小学校を新規研究指定校として、各校の特色や課題に応じ、授業を中心とした実践的研究を行い、その成果を他校に研究授業等で公開するなど、市全体で成果を共有する取組を行った。

「外国青年招致事業」では、ますます英語教育が重要となる中で、英語担当教員と外国青年のALT（外国語指導助手）によるチームティーチングを実施し、ネイティブスピーカーの英語に触れることをとおして英語による「聴

く・話す」力の育成や国際理解教育の充実に寄与することができた。

(イ) 就学援助費補助事業

「就学援助費補助事業」においては、「特別支援教育就学奨励費扶助事業」、「要保護、準要保護児童・生徒扶助事業」を実施した。

「特別支援教育就学奨励費扶助事業」では、小・中学校の特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学児童・生徒用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費を支給し、就学に係る保護者の経済的な負担軽減を図った。

小学校では57名、中学校では16名に対し、特別支援教育就学奨励費扶助事業を実施した。

「要保護、準要保護児童・生徒扶助事業」では、経済的理由によって就学困難と認められる児童・生徒の保護者に対し、学用品費、通学用品費、新入学児童・生徒用品費、校外活動費、修学旅行費、学校給食費を支給し、就学に係る保護者の経済的な負担軽減を図った。

平成27年度においては、小学校では363名、中学校では236名に対し、要保護、準要保護児童・生徒扶助事業を実施した。

(2) 安全・安心な教育環境の整備・充実

「教育環境の整備事業」としては、「小・中学校施設改修事業」による施設の充実と「小・中学校教材教具等の整備事業」による教育環境の充実に寄与することができた。

「小・中学校施設改修事業」では、小・中学校の補修工事、環境整備工事及び通学路整備工事を実施した。

補修工事については、教室の床改修、雨漏り補修、校門周辺整備、外壁改修等を実施し、環境整備工事として特別教室の空調設備工事、窓設置工事等を実施した。

通学路整備工事については、岡田地区通学路整備工事外6件の工事を実施した。

これらの事業を実施した結果、教育環境の整備や児童・生徒の安全確保が図れた。

「通学路危険ブロック塀等改善事業」は、岩出市広報や市のウェブサイトへ

の掲載、市政懇談会や区・自治会長会議でのチラシの配布により、周知に努めたが、利用はなかった。今後、さらなる利用促進を図るため住民への周知方法について再検討する必要がある。

「小・中学校教材教具等の整備事業」では、特に体力向上対策の一つとして、老朽化に伴う体育用マットの入れ替えを行ったほか、小中学校とも計画に基づいた教材備品の充実・更新を図った。

児童・生徒用図書については、小学校では1, 882冊を購入し、小学校の総蔵書数が85, 140冊となった。また、中学校では1, 142冊を購入し、中学校の総蔵書数が43, 405冊となった。その結果、文部科学省の「学校図書館図書標準」による「標準冊数」をすべての小中学校において達成した。

(3) 安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上

「学校給食運営事業」では、児童・生徒に栄養バランスのとれた安全で安心な給食を提供し、心身の健全な育成を図るとともに、地産地消を推進することにより、安全で新鮮な食材の活用を図った。

また、円滑な学校給食運営を推進するため、給食費の滞納者に対しては、学校との連携を一層強化した督促を行うとともに、児童手当からの徴収や夏季・冬季徴収、電話催告、随時の臨戸徴収等を行い、徴収率の向上に努めている。

なお、消費税増税等の影響を考慮し、安定的な学校給食の提供に資するため、学校給食運営委員会において、平成26年度から給食費を1食あたり20円値上げする助言があり、小学校においては1食あたり230円、中学校においては1食あたり250円とした。

次に、生涯学習課においては、「(1) 青少年の健全育成」、「(2) 生涯学習の推進」、「(3) 文化・芸術の振興」、「(4) 人権尊重の推進」の4つの項目を重点事業として実施した。

(1) 青少年の健全育成

青少年の健全育成においては、次代を担う青少年が健全に育つために、家庭・学校・地域・行政が青少年の健全育成を目的とした各種団体との連携を図り、青少年が犯罪に巻き込まれないよう、青色防犯パトロールの巡回や通学路に設置している子ども見守りカメラの運用とともに、登下校時のあいさつ運動、見守り活動などを実施し、犯罪抑止に寄与することができた。

「岩出市青少年育成市民会議」は青少年の健全育成に関し様々な取組を行い、市民の意識向上に努めた。

「岩出市補導委員会」の活動の一環として、青少年を取り巻く環境浄化を図るため、ゲームセンターや大型店舗での非行未然防止活動を実施した。

「岩出駅周辺環境浄化パトロール」では、各種関係団体等の連携により、駅前での清掃作業や下校時の生徒に声かけ運動を実施した。

「青少年センター」においては、青少年非行の早期発見、早期指導、その他青少年の不良化防止活動を有効かつ適切に行い、学校・警察・各種団体と連携を密にし、青少年健全育成のため取り組んだ。

(2) 生涯学習の推進

生涯学習の推進においては、子どもから高齢者まで、一人ひとりが個性や能力を伸ばし、生きがいのある充実した生活を送るため、学習機会の提供と環境づくりを行った。

「放課後子ども教室推進事業」においては、市内6小学校67教室を開催し、延べ6,027名が参加した。

「公民館文化教室」では、15講座で、延べ276名が受講し、知識や技術を身に付けるだけでなく、ともに学習する仲間として、人と人との結びつきを深めることができた。

「成人講座」では、10講座で、延べ1,052名が受講し、現代社会が抱える課題を教材として学習し、相互のふれあいと交流を深め、地域社会の発展に寄与することができた。

公民館においては、市民の高まる学習意欲やニーズに対応した生活に役立つ学習、文化的な学習、地域に貢献できる学習等の教室や講座を実施した。

事業としては、

- (ア) 市民の方を対象とした文化教室として、書道教室、英会話教室、中国語教室等を開催。
- (イ) 成人講座として、行政講座や歴史講座等を開催。
- (ウ) パソコン教室の開催。
- (エ) 子どもを対象とした夏・冬の子ども講座として、クッキング教室を開催。
- (オ) 高齢者を対象としたふれあい学級として、歴史講座や健康教室等を開催。

「全国子守唄サミット&フェスティバル」では、子守唄の保存・継承に努めている全国の加盟団体（7団体）と交流を深めることができ、根来の子守唄を全国に発信することができた。

平成27年度は、静岡県沼津市で開催され、根来の子守唄保存会と根来史研究会根来鉄砲隊が参加した。

「ねごろ歴史資料館整備事業」は、根来寺境内ガイダンス施設及び岩出市の新たな観光の拠点施設と位置づけられており、地域の特色である埋蔵文化財の総合的な公開活用に向けて整備を行った。

スポーツ事業として、「市民運動会」では8,931名の参加があり、市民のスポーツ振興と、レクリエーションの普及や健康増進を図り、市民相互のふれあいと交流を深める機会を提供することができた。

「岩出マラソン大会」では、2,544名の参加があり、市外からの多くの参加者に対して岩出市を広くPRすることができ、また、参加者間の交流により互いに触れ合うことができ、有意義な大会であった。

また、競技力の向上と育成、活動の活性化を図るため、スポーツ少年団や体育協会等への補助や、全国大会等に出場する選手に補助することで、生涯スポーツの振興と青少年の健全育成等に寄与することができた。

全国大会は7件、近畿大会は4件、県大会は15件で、合計26件の補助を行った。

(3) 文化・芸術の振興

文化・芸術の振興においては、多種多様な芸術・文化に触れる機会の提供、また、伝統的文化の継承を促進し、文化・芸術の振興を図った。

「文化祭事業」では、18,782名の参加があり、市民の文化活動の成果を発表する場を設け、文化活動の振興と普及を図れた。

「公民館フェア事業」では、コンサートに12団体、221名、ギャラリーに19団体、207名の参加があり、人々の出会い・ふれあいの場を提供できた。

(4) 人権尊重の推進

人権尊重の推進においては、あらゆる人権問題の解決に向け、住民に対する人権意識の向上を図った。

「人権啓発事業」では、子どもの人権をテーマに講演会を開催し、76名の参加があり、人権意識の向上が図れた。

次に、岩出図書館においては、「(1) 子ども読書活動推進事業」、「(2) 図書館運営事業」、「(3) 図書等購入事業」の3つの項目を重点事業として実施した。

(1) 子ども読書活動推進事業

図書館司書派遣事業では、平成26年度2学期から市内各小学校図書館に学校司書として岩出図書館の司書資格を有したスタッフを派遣しており、平成27年度1学期から中学校にも拡大している。

日本十進分類法に沿った配架や季節感のある掲示、おすすめ本の展示などの学校図書館の環境整備や、子どもたちへの学校図書館の利用案内や読み聞かせ、教員が授業で使用する図書の収集、中学生のビブリオバトルへの取組の支援、岩出図書館での取組のPRなどを行うことにより、岩出図書館と学校が連携し、小中学校における学校図書館の活性化及び読書活動の推進を図った。

家族ふれあい読書推進事業では、家族が子どもと一緒に読書する時間をつくり、「うちどく（家での読書）」することを推進するため、おすすめの図書のリストや家族の読書の記録を書きとめる欄を掲載した「うちどくノート」の配布や、おすすめ本を展示する「うちどくコーナー」の設置、「うちどくクイズ」の実施、「うちどくの記録」の展示などを行い、市内の各小中学校と連携しながら家庭力の向上と子どもの読書活動の活性化を図った。

（２）図書館運営事業

市民に図書館に対する理解と関心を深めてもらうとともに、さまざまな情報提供や啓発を行うため、各種のイベント事業、講演会、DVD上映会等を開催することにより、利用促進を図った。

平成27年度の入館者数は、岩出図書館及び分館・分室合わせて205,813人、貸出冊数は、364,027冊、平成27年度末の蔵書数は、278,160冊、登録者数は、28,928人であった。

（３）図書等購入事業

より多くの市民に利用してもらえるよう、市民のニーズ、社会的な動向、公共図書館の役割を考え、一般図書7,845冊、児童図書3,158冊、参考図書197冊、DVD100枚、CD100枚を購入した。

今後も、地域密着型図書館として、市民の身近にあって、「いつでも、どこでも、誰でも」図書館サービスが受けられるよう努める。

次に、民俗資料館においては、「（１）民俗資料館の充実」、「（２）文化・学習基盤の確立」の2項目を重点事業として実施した。

（１）民俗資料館の充実

「民俗資料館資料収集事業」では、展覧事業で使用する根来塗漆器を購入するとともに、企画展等で使用する民具等の収集を行った。

(2) 文化・学習基盤の確立

(ア) 民俗資料館展観事業

市内外からの寄贈品を展示する「所蔵品展」では、昔と現代の生活の違いや時代の流れなどをテーマに、幅広い年齢層が楽しみ学べる展示を行った。

「収集資料品展」では、市の歴史的・文化的資料でもあり、昨年度に数件の情報番組で紹介されて反響を呼んだ根来塗漆器について、その製造過程や歴史などを紹介し、展示品の入れ替えにより動きのある展示を行った。

文化協会作品展示では、6団体が日頃の活動成果発表の場としてご利用いただき、作品展示を一目見ようと訪れる市民の交流の場として賑った。

(イ) 民俗資料館歴史学習・講座事業

歴史講座は6月・2月の2回開催し、市民に様々な角度から郷土の歴史と日本の歴史について学ぶことができる機会を提供することができた。

また、「夏休み子ども歴史学習会」を2回開催し、古代のアクセサリーを自ら造る体験学習「勾玉づくり」に加え、郷土に因んだ歴史学習の機会を提供することができた。

Ⅱ 各課の事業に対する点検評価の結果について

1 点検評価結果

【教育総務課】

(1) 豊かな学力の育成と体力の向上

〔基本方針〕

生涯にわたる人間形成の観点から生涯学習の基礎を培い、豊かな心と多様な社会環境に適応できる能力を持った児童・生徒の育成に向けて、教育施設や教育内容の充実を図る。

また、「生きる力」を育むため、個人の尊厳と個性の尊重という基本的な考えに立ち、一人ひとりの能力と個に応じた教育実践に努め、家庭や地域との連携による指導の充実などを行う。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- いわでアスリートクラブ事業では、陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成に努めた。
実施回数：37回 登録者数：284名。
実施場所：中央小学校又は大宮緑地総合運動公園。
- 適応指導教室事業では、学校や関係機関と連携を図り、児童・生徒の在籍校への復帰に努めた。
入室生徒数：小学生1名、中学生21名。（うち中学生5名は体験者）
延べ日数：小学生9日、中学生1,205日。
来所相談者：36名 電話相談件数：27件 訪問件数：105件。
- 授業における実践研究を行うことにより、教職員の資質向上を図り、児童・生徒の確かな学力の育成に努めた。
中央小学校（2年目）特別支援教育の視点を生かした授業作り（国語）
他の5校は、それぞれの特色を生かした自主研究を実施。
- 紀の国緑育推進事業については、自然と触れ合う機会が減少している子どもたちに、森林体験等貴重な体験をさせることができた。
参加児童数：592名 場所：日高川町 日高川ふれあいドーム。
- 特別支援教育就学奨励費扶助事業を実施することにより、保護者の負担軽減に努めた。
小学校：57名 中学校：16名。

- 要保護、準要保護児童・生徒扶助事業を実施することにより、保護者の負担軽減に努めた。
小学校：363名 中学校：236名。
- 事業所の協力により、職場体験を実施することができた。
岩出中学校 2年生 256名 85事業所。
岩出第二中学校 2年生 300名 78事業所。
- 授業の一環として中学校の防災訓練を実施した。また、防災の啓発・指導・実践活動ができるジュニアリーダーの育成を行った。
防災訓練
岩出中学校3年生 274名 岩出第二中学校3年生 317名。
防災ジュニアリーダー 44名参加。
岩出市地域防災訓練 22名参加。
- 外国青年を英語指導助手として招致し、中学校で英語教育を実施した。
岩出中学校、岩出第二中学校に2週間ごとに英語授業の助手として勤務。

〔総合評価〕

- ◎ 豊かな学力の育成と体力の向上については、9事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が8事業、「やや下回る」が1事業と評価し、今後の方向性は8事業を「継続」、1事業を「廃止」し、事業の見直しを行う。
- いわでアスリートクラブ事業については、登録者も多く成果があがっているが、指導者の確保が課題となっている。
- 適応指導教室事業については、依然、入室困難な児童・生徒がいるため、学校、家庭及びスクールカウンセラーや他機関との連携強化をさらに図っていく必要がある。
- 確かな学力育成のための実践研究事業については、子どもの意欲や態度に改善の兆しがみられるが、より学力向上に資する事業に見直すべきである。
- 外国青年招致事業については、英語教育や国際理解教育の充実に大きな役割を果たすことから、今後も継続した実施が必要である。

〔外部評価委員の意見〕

- 適応指導教室事業については、入室者の割合が不登校児童生徒全体の一部になっていることから、適応指導教室について周知方法を工夫する必要がある。また、適応指導教室の環境について、児童生徒が安心してゆったりと過ごせるよう、教室の移転を含め改善策を検討されたい。
- 確かな学力育成のための実践研究事業を新たな事業に見直すということ

であるが、本事業により教員の資質向上が図られてきた。新事業に移行し、さらなる教員の資質向上に努められたい。

(2) 安全・安心な教育環境の整備・充実

〔基本方針〕

児童・生徒が安全で安心できる教育環境を整備するため、計画的な施設、教材教具等の整備に取り組む。

また、家庭、学校、地域、関係機関と連携し、登下校時の安全確保と交通マナーの向上に努める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 小・中学校の補修工事については、優先順位により計画どおり事業を実施し、児童・生徒の安全確保に努めた。
- 倒壊による事故を未然に防止するため、通学路危険ブロック塀等改善事業補助を計画していたが、利用件数はなかった。
- 教材・教具等の整備については、小・中学校とも、計画に基づき進めることができた。図書整備については、すべての小中学校の蔵書数が図書標準を満たすことができた。
- 登下校時の危険防止のため、児童携帯用防犯ブザー購入費を補助し防犯ブザーの携帯を奨励したが、申請率は伸び悩んでいる。
137名分を補助 申請率27%。

〔総合評価〕

- ◎ 安全・安心な教育環境の整備・充実については、4事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が2事業、「やや下回る」が1事業、「期待以下」が1事業と評価し、今後の方向性は4事業全てを「継続」とした。
- 小・中学校施設改修事業については、補修工事、環境整備工事の実施により、教育環境の整備や安全確保が図られたが、通学路の危険箇所については、さらに安全確保に取り組んでいく必要がある。
- 通学路危険ブロック塀等改善事業については、児童・生徒の安全確保を図るため必要な事業であり、通学路点検の際に該当する住民宅へチラシを配布するなど、地域住民への周知方法の改善に努めていく必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 小中学校施設改修事業について、学校の耐震化工事は既に完了しているが、大震災が起こった場合には学校が避難所となるため、熊本地震を教訓に、学校の避難所としての機能について再度検討されたい。
- 児童生徒の学力向上には、教材・教具の整備充実は不可欠である。引き続

き整備充実に努められたい。

(3) 安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上

〔基本方針〕

安全で安心な学校給食を提供し、地産地消率の向上に努め、栄養バランスの取れた学校給食を提供する。

また、学校給食費の完全徴収を目標に、児童手当からの徴収をはじめ、学校と連携しながら円滑な学校給食の運営に努める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

○ 学校給食については、児童・生徒に栄養バランスの取れた安全で安心な給食の提供に努めたが、地産地消率が大きく前年度を下回った。給食費の徴収率もわずかに昨年度を下回った。

地産地消の推進 旬の野菜21品目使用 地産地消率59.2%

(H26:旬の野菜25品目使用 地産地消率61.7%)

徴収率(現年度)98.78%。(H26徴収率(現年)98.92%)

〔総合評価〕

◎ 安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上については、1事業の評価を実施し、総合評価は「やや下回る」、今後の方向性は「継続」とした。

○ 学校給食運営事業については、安全・安心な学校給食の提供に資するため、献立の工夫や食材の仕入れ先の検討などにより地産地消率の向上を図る必要がある。給食費の滞納者に対し、支払督促申立てによる債権差押や、学校との連携による個別徴収をより一層強化するとともに、コンビニ収納や児童手当からの徴収等、徴収方法の工夫により、さらなる徴収率の向上に努める必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

○ 学校給食の適正な運営と、保護者負担の公平性の観点から、給食費の完全徴収は重要である。特に現年度の完全徴収の強化に努められたい。

(1) **青少年の健全育成**

〔基本方針〕

青少年健全育成に関わる各種団体の活動の充実と各組織との連携強化に努め、家庭・学校・地域及び行政がそれぞれの果たす役割を明確にし、青少年を取り巻く様々な問題について取り組み、子どもの育つ環境を守るとともに、地域社会を形成している大人に対しても、青少年の健全育成に対する重要性や意識の向上に努める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 青少年が心豊かに成長することを願い、青少年の健全育成の一環として、「青少年育成市民会議」をはじめ、各組織の強化・充実に努めた。
- 「あいさつ運動」、「見守り活動」、「子ども安全パトロール隊」などの活動を通じて、青少年の取り巻く環境の安全確保を図った。
- 青少年センターでは、青少年の健全育成及び非行防止として、不良行為の早期発見、早期指導、補導活動、少年相談、立ち直り支援などに努めた。

〔総合評価〕

- ◎ 青少年の健全育成については、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」であり、今後も、学校・警察・青少年センター及び家庭・地域関係団体等が行政と一体となって、青少年が健やかに育つ環境づくりに努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 各地区で実施されているあいさつ運動や見守り活動は、犯罪の抑止に一定の効果をあげている。子どもが少なくなっている地域では、植木の水やりや庭先の掃除など屋外での活動を、児童生徒の登下校時に合わせて行っていただくよう呼びかけてみてはどうか。

(2) 生涯学習の推進

〔基本方針〕

市民一人ひとり生きがいを持って、人生を送ることのできる活力あるまちづくりを進めるため、学習者の主体性を尊重し、「いつでも、どこでも、誰でも学べる」、「共に生き、共に学ぶ」ことができる環境づくりに努める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 放課後子ども教室推進事業については、子どもたちの安全・安心な居場所づくりのため、小学校の空き教室等を利用して、地域の方々の参画を得て、学習活動・文化活動を通して、地域住民との交流活動に取り組んだ。
6小学校で67教室、参加児童延べ人数は6,027名。
- 公民館事業については、市民一人ひとりが生涯学習の各過程において、適切に学習できる「場」と「機会」を提供し、あらゆる世代に親しまれる公民館活動を実施した。
 - 文化教室は、15講座、受講者数は延べ276名。
 - 成人講座は、10講座、受講者数は延べ1,052名。
 - ふれあい学級は、11講座、受講者数は延べ2,045名。
 - パソコン教室は、2教室、受講者数は38名。
 - 家庭教育学級は、10か所（保育所（園）、幼稚園）
受講者数は1,014名。
- 生涯学習振興事業については、文化祭の前夜祭として、生涯学習を考えるつどいコンサートを実施した。
 - 秋の名曲コンサート「～オペラの名曲をあなたに・・・～」
参加者365名
- 根来の子守唄保存事業については、静岡県沼津市で開催された全国子守唄サミット&フェスティバル in 沼津に参加したほか、民話・伝承などを活かした地域活性化事業を実施した。
 - 全国子守唄サミット&フェスティバル in 沼津
根来の子守唄保存会6名。根来史研究会根来鉄砲隊7名。
 - 民話・伝承などを活かした地域活性化事業
講座の開催 森川隆之「ふるさと音楽の魅力について」 30名

講演会の開催 五味文彦「根来の歴史と民話～地域の力を考える～」

153名

学校開放週間における民話・伝承などの学び

11/2 158名、11/4 369名、11/6 650名

- ねごろ歴史資料館整備事業については、資料館の建設に伴い、根来寺境内ガイダンス施設としての展示構成と内容について検討し、地域の特色である埋蔵文化財の総合的な公開活用に向けて整備を行った。
- 負担金・補助金事業については、市民の健全な体育及びレクリエーションの振興、青少年の健全育成のため、補助金を交付した。
- 市民運動会事業については、市民のスポーツ振興とレクリエーションの普及・浸透を図り、よりよい人間関係を育むと共に、明朗・活発な人間育成のため実施した。

参加者数は、8,931名

- 岩出マラソン大会実行委員会補助事業については、参加者の健康と体力づくり、生涯スポーツの普及と振興を目的に、マラソン大会を開催した。このことにより、岩出市を広くPRすることができた。

参加者数は、2,544名

- スポーツ教室事業については、市民のスポーツ振興を図り、健康で明るいまちづくりを推進する事を目的に実施した。

親子教室は、123組で251名の参加。

ヨガ教室は、44名の参加。

エアロビクスは、44名の参加。

- 大会等派遣事業については、スポーツ活動の振興とスポーツ活動団体の育成を図るため、各種スポーツ大会の出場に要する経費の一部を補助した。全国大会は7件、近畿大会は4件、県大会は15件の計26件。

〔総合評価〕

- ◎ 生涯学習の推進については、10事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が10事業で、今後の方向性は「継続」が10事業とした。今後とも教室や講座等の事業の必要性や有効性等を常に検証しながら事業展開を図っていく必要がある。

〔外部評価委員の意見〕

- 公民館事業では各種の教室や活動が行われているが、常に住民ニーズの把握に努め、より多くの市民が参加できるよう引き続き努められたい。
- 生涯学習課は、毎年、市民運動会や、マラソン大会など、市あげての大イベントを実施しているが、特に平成28年度は岩出市誕生10周年を記念する事業となるため、記念事業にふさわしい内容を工夫されたい。

(3) 文化・芸術の振興

〔基本方針〕

創造性のある文化の薫り高いまちづくりに向けて、郷土文化の保存継承並びにふるさと教育の更なる充実を図り、多種多様な芸術・文化に触れる機会を充実させるとともに、文化団体の育成など地域文化活動の支援に努める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 文化祭事業については、市民の文化活動の成果を発表する機会を設け、文化活動の振興と普及を図り、参加を通じて文化への理解を深め、心がふれあう活力あふれるまちづくりを目的に開催した。

参加人数は18,782名。

- 公民館フェア事業については、文化教室及び公民館利用サークルの日頃の成果発表の場を設け、人々の出会い、ふれあいの機会をつくり、公民館活動・文化活動に対する理解と関心を深めることを目的に開催した。

コンサート 12団体で221名の参加。

ギャラリー 19団体で207名の参加。

チャリティー 2団体で 32名の参加。

〔総合評価〕

- ◎ 芸術・文化の振興については、2事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が2事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 文化祭については、出品数が横ばい状態であり、多くの市民に出品いただけるよう、企画・運営等協議し、幅広く参加できるよう努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 文化祭についても、平成28年度は、岩出市誕生10周年記念事業にふさわしい内容を工夫されたい。

(4) 人権尊重の推進

〔基本方針〕

重要課題である同和問題はもとより、女性、子ども、高齢者、障害者などあらゆる人権問題の解決に向け、住民に対する人権意識の高揚に努める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 人権啓発活動地方委託事業については、人権尊重思想の普及・高揚を図り、市民に人権問題に対する正しい認識を広めるため開催した。

〔総合評価〕

- ◎ 人権尊重の推進については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」が1事業で、今後の方向性は「継続」とした。
- 子どもの人権をテーマに、人と人が交わり支え合う社会をめざすことを目的として講演会を開催し、今後も多くの方に参加いただけるよう、創意工夫を凝らした内容とし、人権問題に関する正しい認識を得ることに努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 人権教育・啓発の推進は、重要な市の役割である。今後も、庁内の関係部署はもとより、様々な関係機関と連携しながら充実に努められたい。

【岩出図書館】

(1) 子ども読書活動推進事業

〔基本方針〕

家庭・地域・学校がそれぞれの機能を発揮し、子どもが自主的に読書活動を行えるよう、学校や図書館などの関係機関、民間団体等と緊密に連携し、相互に協力しながら、子どもの発達段階に応じた読書活動を積極的に推進する。

また、図書館及び学校図書館の図書資料や施設・設備を充実し、子どもの身近なところに読書のできる環境を整備するとともに、読書の意義や重要性について、市民の理解と関心を深める。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 図書館司書派遣事業では、岩出図書館から司書資格を有したスタッフを26年度2学期から市内各小学校へ、27年度から市内各中学校に派遣し、学校図書館の環境整備や児童・生徒の読書支援及び学習支援、また、司書教諭・学校図書館ボランティアに対する助言等を行った。

中学校では、学校図書館の配架替えや掲示物やサインの設置などの環境整備やビブリオバトルの支援を行った。

前年度から学校図書館の環境整備を行っている小学校では、読み聞かせの他に、アニメシオン、ブックトーク、調べ学習などを実施する学校が増えた。

団体貸出についても、並行読書や調べ学習への支援により、前年度に比べ、学校への団体貸出冊数が3倍に増加し、岩出図書館の蔵書の活用が進んだ。

- 家族ふれあい読書推進事業では、「うちどくノート」の各小中学校への配布を行い、図書館にはおすすめ本を展示する「うちどくコーナー」を常設している。

また、うちどくノートに掲載しているうちどくにおすすめの図書から問題を出題する「うちどくクイズ」を実施するとともに、各小学校から選出された児童の「うちどくの記録」を岩出図書館に展示するなど、「うちどく」の啓発を行った。

〔総合評価〕

- ◎ 子ども読書活動推進事業については、2事業の評価を実施し、「期待どおり」が1事業、「やや下回る」が1事業で、今後の方向性は2事業とも「継続」とした。
- 図書館司書派遣事業については、小学校では、司書を派遣する日に学校図書館を全クラスが均等に利用できるような時間割を工夫する学校が増えた。全ての学校で学校司書が読み聞かせをしているが、アニメーションやブックトーク、調べ学習などは取組をしている学校としていない学校がある。学校によって支援内容にばらつきが出ないように、学校司書の間で情報交換を行うとともに、学校に取り組んでもらえるよう啓発する必要がある。

学校への団体貸出冊数が3倍に増加したが、中学校への団体貸出冊数があまり増加していなかったため、中学校の調べ学習への取組を積極的に支援することにより、増加を図る。
- 家族ふれあい読書推進事業については、岩出図書館から学校司書を派遣し始めたのをきっかけに、「うちどく」に取り組む学校が増えたが、「うちどくノート」の利活用度については、学校・学年・担任によって温度差がある。「うちどく」に関する学校への周知は事業開始以来行ってきたが、各教員にまで周知できていないと感じることがあるので、それを行うのが急務である。

〔外部評価委員の意見〕

- 家族ふれあい読書推進事業について、うちどくノートの活用促進のため様々な工夫を凝らしているが、学校や学年によって活用の温度差が見られるため、内容を見直す時期にきているかもしれない。そういった観点も含みながら学校との協議を充実されたい。

(2) 図書館運営事業

〔基本方針〕

図書紹介、行事案内やサービス内容など様々な情報を発信したり、おはなし会、イベント事業、講演会を開催することにより、市民の図書館に対する理解や関心を深め、図書館利用の促進を図る。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 他の部署と共催するなど多角的な広報を行いながら、各種のイベント事業、講演会、DVD上映会、展示等を行い、市民の読書活動・生涯学習の向上とともに、図書館のPRができた。

入館者数は、205,813名

貸出点数は、364,027冊

貸出人数は、117,913名

登録者数は、28,928名

〔総合評価〕

- ◎ 図書館運営事業については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 図書館利用促進事業については、中学生以上を対象としたイベントが少ないので、中高生ビブリオバトルの開催により、中高生の参加を見込めると思ったが、観戦者は一般の方が多かったので、中高生の観戦者を増加させるような広報をする必要がある。28年度は岩出図書館開館10周年記念事業など目新しいイベントを計画しているので、新規利用者の獲得に向け、利用促進に努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 様々な工夫を凝らすことにより入館者数や貸出人数の増加につながっており、すばらしい取組である。

駅前ライブラリーや中央公民館の利用者増につなげるため、岩出図書館本館で借りた図書であっても、他の分館・分室で返却できることをもっとPRしてはどうか。

(3) 図書等購入事業

〔基本方針〕

岩出図書館資料収集基準に基づき、公共図書館の役割、利用者各層の要求及び社会的な動向を十分考慮して、広く市民の文化、教養、調査、研究、趣味、娯楽等に資するため、図書等を幅広く収集する。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 市民の多様なニーズに対応できるよう様々なジャンルの資料を取り揃え、本館と分館・分室のネットワーク化により、「いつでも、どこでも、誰にでも」図書館サービスが受けられるように、地域密着型図書館運営に努めた。

図書

一般図書	7,845冊
児童図書	3,158冊
参考図書	197冊
計	11,200冊

視聴覚資料

DVD	100枚
CD	100枚
計	200枚

〔総合評価〕

- ◎ 図書等購入事業については、1事業の評価を実施し、総合評価は「期待どおり」で、今後の方向性は「継続」とした。
- 今後も、利用者のニーズや社会の動向を把握し、資料収集を行うとともに、関係機関からの情報収集を行いながら引き続き郷土資料を充実させる。

〔外部評価委員の意見〕

- 当初の目標である平成33年度の蔵書数30万冊達成に向け、引き続き計画的な図書購入に努められたい。

(1) 文化・芸術の振興

〔基本方針〕

歴史的文化資源の活用を図り、伝統工芸を継承していくことのできる人材の育成、展観事業、講座、講演会を開催することにより、資料館に対する関心を深め、民俗資料館の利用促進を図る。

〔平成27年度の主な取組状況〕

- 民俗資料館資料収集事業については、根来塗漆器を文化的資源保護として、また民具等を郷土資料の保管を目的に収集を行った。

根来塗漆器購入点数 12点

民具等収集点数 15点

- 民俗資料館展観事業については、市民に郷土の歴史・文化に関心と理解を深めていただくことを目的に開催した。

収集資料品展 39,795名

所蔵品展 3,284名

秋季企画展 7,510名

根来塗講座受講生作品展 5,367名

岩出市文化協会作品展示 7,922名（6団体の延べ人数）

- 民俗資料館歴史学習・講座事業については、講演会や歴史講座と併せて、新たな取組として歴史学習会を実施し、市民に様々な角度から郷土の歴史や成り立ちについて学び触れ合う機会を提供した。

歴史講座 第1回 57名

第2回 168名

夏休み子ども歴史学習会 第1回 36名

第2回 36名

ふるさと歴史学習会 31名

秋季企画展講演会 47名

〔総合評価〕

- ◎ 芸術・文化の振興については、3事業の評価を実施し、総合評価は「期待以上」が1事業、「期待どおり」が2事業、今後の方向性は「継続」が3事業とした。
- 民俗資料館の運営に関し、市民の要望に沿った講座・学習会の開催や、来館者の関心が高い根来塗漆器・古民具などを収集することで、歴史的・文化的資料を最大限活用し、展観事業の充実と活性化を図り、多くの来館者が「来てよかった」と感じていただけるように努める。

〔外部評価委員の意見〕

- 民具等の収集は、小学校社会科との関連が強いため、引き続き収集に努めるとともに、学校教育支援の充実に努められたい。
- 平成28年4月に、新たにねごろ歴史資料館と旧和歌山県議会議事堂（一乗閣）がオープンした。この両施設及び根来寺と常に連携し、本市の観光振興という観点からの運営も工夫していく必要がある。そのためにも市のウェブサイト等を活用してはどうか。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	豊かな学力の育成と体力の向上	いわでアスリートクラブ事業	陸上競技を通じて、児童の心身の健全育成を図る。	毎週土曜日の午前中に、中央小学校又は大宮緑地総合運動公園を使用して、岩出市内の小学生(3年生以上)を対象に、陸上競技活動を実施する。	b	継続	継続して参加している児童は、確実に陸上の競技力が身につく、心身ともに向上が見られ成果が上がっている。県大会出場者のべ65名うち入賞者のべ43名。 指導者は、ボランティア頼りになっていること、小学校の教員が多いため、学校行事等と重なり指導者が不足する時があることなどの理由から、確実な指導体制の確保と指導者の負担軽減のために、より多くの指導者を確保する必要があり、入部者の保護者などで陸上経験者に協力を依頼している。
2	"	適応指導教室事業	心理的要因等により学校生活に適応できず登校できない児童及び生徒の在籍校への復帰を目的とする。	不登校児童・生徒に対し、在籍校への復帰や自立を図るための指導及び援助、不登校児童・生徒に対する教育相談、学校等関係機関との連携を行う。	b	継続	小学生の入室者は昨年と比べ0名→1名、中学生の入室者は17名→21人名と増加している。また、電話及び来所相談件数は84件→63件と減少した。入室者の中でも、ほぼ毎日出席できる生徒と全く出席できない生徒がいるため、出席できない生徒への働きかけが必要である。 昨年度に引き続き、入室が困難な生徒に対して、在籍校と連携を図り家庭訪問等連絡を密にし、本教室の活用を促進するとともに、通級しやすい環境づくりも課題である。 中学3年生の入室者及び体験者13名全員が高等学校へ進学している。
3	"	確かな学力育成のための実践研究事業	授業における実践研究を行うことにより、教員の資質向上を図り、児童の確かな学力を育成する。	中央小学校を特別支援教育の視点を生かした授業づくり研究の拠点校として、市内各小中学校と連携しながら、子どもの確かな学力を育成している。 他の小学校5校については、それぞれの特色を生かした自主研究を実施。	c	廃止	各学校とも教員が意欲的に研究を推進し、その結果、子どもの意欲や態度に改善の兆しが見られるが、より学力の向上に資する事業に見直すべきである。
4	"	紀の国緑育推進事業	子どもたちが森林の働きや林業について学び、実際に間伐作業や木材加工を体験することにより、森林を守り育てる意識を醸成し、森林学習を深める。	森林体験学習前に、森林の働きや林業について参考資料を用いた事前学習を行い、その後、森林に入り、実際に間伐作業や木材加工を体験する森林体験学習を行う。最後に、事後学習としてこれまでの学習を振り返り、森林の大切さや森林の保全について学習する。	b	継続	自然と触れ合う機会が減少している現代の子どもたちにとって、本事業は貴重な体験ができる事業であり、森林や林業について学ぶだけでなく、環境への興味・関心を高める役割を果たしている。 事後学習では、森林体験を振り返り、まとめ学習や作文、間伐材を用いた木工を行うことで、学習効果を高めることができた。今後も、体験学習をより生かせるよう、事前・事後学習の充実に努める。
5	"	特別支援教育就学奨励費扶助事業(小・中学校)	特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者に対し、特別支援教育就学奨励費を国の基準により支給し、特別支援教育の振興を図る。	学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学用品費、新入学児童・生徒用品費、通学用品費に対する扶助費である。 支給については、年3回(7月、12月、3月)支給する。	b	継続	特別支援学級に在籍する児童・生徒の保護者の経済的な負担が軽減され、特別支援教育の振興を図ることができた。 本事業の果たす役割は大きく、今後も事業の継続が必要である。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
6	豊かな学力の育成と体力の向上	要保護、準要保護児童・生徒扶助事業(小・中学校)	経済的理由によって就学が困難と認められる児童・生徒に対し、就学の援助を行い、義務教育の円滑な実施を図る。	学校給食費、修学旅行費、校外活動費、学用品費、新入学児童・生徒用品費、通学用品費に対する扶助費である。年3回(7月、12月、3月)支給する。	b	継続	要保護・準要保護児童・生徒の保護者の経済的な負担が軽減され、義務教育の円滑な実施を図ることができた。経済的理由により就学困難な家庭にとって、本事業の果たす役割は大きく、事業の継続が必要である。
7	〃	和歌山を元気にする職場体験事業	職場体験事業を実施することにより、生徒に望ましい勤労観及び職業観を身に付けさせる。	各中学校において、事業所の協力を得て、中学2年生を対象に3日間の職場体験を実施する。	b	継続	中学生が職業について考え、自分の進路を考える絶好の機会となった。今後も必要な事業であるため、さらなる受け入れ事業所の開拓が必要である。また、今後も、紀の川市の教育委員会及び中学校と連携し、情報交換を行っていく必要がある。
8	〃	中学校防災訓練及び防災ジュニアリーダー育成事業	中学生の危機意識を高めるとともに、災害時の地域防災活動において中心的な役割を担うことを意識づけるために防災訓練を実施する。	防災訓練は、各中学校を会場に3年生全員を対象として実施する。防災ジュニアリーダー育成事業は、夏休みの2日間、那賀消防組合消防本部及び中消防署を会場に、中学生の希望者を募り実施する。本事業の受講者は、岩出市地域防災訓練にも参加する。	b	継続	授業の一環として防災訓練を実施することができた。生徒は概ね真面目な態度で参加することができた。今後も、こうした訓練を一層充実させ、中学生の防災意識の高揚を図り、防災の啓発・指導・実践活動ができるジュニアリーダーの育成に努める。
9	〃	外国青年招致事業	中学校の英語の授業において、外国青年の補助により英語を多用した授業を実践することにより、外国語教育の充実及び推進を図る	外国青年を英語指導助手として招致し、中学校で英語教育の授業を実施する。	b	継続	英語教員と英語指導助手とのチームティーチングを実施することにより、中学校の英語教育が充実した。また、英語指導助手と生徒とのコミュニケーションが、英語の授業以外でも積極的に行われ、国際理解教育の充実にも寄与した。今後、さらに英語教育の重要性が増してくることから、引き続き本事業の継続が必要である。
10	安全・安心な教育環境の整備・充実	小・中学校施設改修事業	施設の補修及び通学路の整備工事等により安心して学習できる環境整備や児童生徒の安全確保を図る。	小・中学校の補修工事、及び通学路整備工事とそれに伴う設計監理業務委託ほか各種業務委託を実施する。	b	継続	各小・中学校の補修(根来小学校雨漏り補修工事等)、中央小学校特別活動室空調設備工事外を施工し、児童・生徒が、安全で安心して授業や屋外の活動を受ける環境の確保が図れた。通学路の危険箇所については、教育委員会、学校、道路管理者及び警察と協議し、危険箇所の改善に努めた。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
11	安全・安心な教育環境の整備・充実	通学路危険ブロック塀等改善事業	通学路に面したブロック塀等の倒壊による事故を未然に防止し、児童・生徒をはじめとする歩行者の安全を確保する。	ブロック塀等の撤去、軽量塀等設置を補助する。ブロック塀等撤去件数0件、軽量塀等設置件数0件。	d	継続	児童・生徒の安全確保を図るため必要な事業であり、今後も地域住民に補助制度について周知に努める。
12	〃	小・中学校教材教具等の整備事業	教材・教具を整備し、児童・生徒の学習意欲の向上及び教師の指導の効率化を図る。 児童・生徒図書を充実させ、読書環境の整備強化を図る。	教材・教具購入については、学校からの購入希望を元に、緊急性・必要性を精査し計画を立て、整備を進める。 学校の図書購入希望リストに基づき、整備を進める。学校図書標準冊数を蔵書数の整備目標とする。	b	継続	小・中学校とも教材・教具の充実・更新を図ることができ、児童・生徒の学習意欲向上及び教師の指導効率化に寄与した。 図書は、小学校において、岩出小232冊、山崎小442冊、山崎北小402冊、根来小270冊、上岩出小273冊、中央小262冊の計1,182冊を購入した。また、中学校において、岩出中610冊、岩出第二中919冊の計1,529冊を購入した。 今回の図書購入によりすべての小中学校が図書標準冊数に達した。
13	〃	児童携帯用防犯ブザー補助事業	防犯ブザー購入費の一部を補助することにより、携帯率を高め、児童を犯罪から保護し、危険を防止する。	各校PTAが防犯ブザーを購入する費用に対して、その1/2を補助する。ただし、児童1人につき1回限りとし、限度額400円。	c	継続	登下校における犯罪等防止に効果を挙げているが、児童の好みに合った商品を独自に購入する家庭も多数あり、申請率は低い。 児童の安全を守るための事業であるため、今後も携帯率向上に努める。
14	安全・安心な学校給食の充実と徴収率の向上	学校給食運営事業	児童・生徒に栄養バランスの取れた安全な給食を提供し、心身の健全な育成を図るとともに、円滑な学校給食運営を推進するため、給食費の完全徴収に取り組む。	地産地消の推進を図り、献立の工夫改善に取り組む。 給食費については、学校との連携を図るとともに、児童手当からの徴収により徴収率の向上に取り組む。	c	継続	学校給食は、栄養バランスの取れた献立となっている。 地産地消率59.2% 現年度給食費徴収率98.78% 今後も、地産地消の推進と安全・安心な給食の提供を図るとともに、さらなる学校との連携の強化や児童手当からの徴収を行い、新たな滞納者を増やさないよう現年度の完全徴収に努める。

平成27年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日)

生涯学習課

総合評価

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	青少年の健全育成	青少年健全育成事業	家庭・学校・地域と行政が連携し、安全な環境づくりを目指し、次代を担う青少年の健全な育成を図る。	あいさつ運動や見守り活動を全市的な取り組みとして推進、小学校を中心とした子どもを守るネットワークの構築。大人と子どもが一緒に参加できる各イベント企画により参加者との交流を図る。自主防犯パトロールに対して青色回転灯の貸出及び啓発活動の充実を図り、校区别懇談会にて青少年の抱える懸案事項の協議を実施。	b	継続	「子どもリーダー交流会」、「スポレクフェスタ」など各事業における参加者も多く、効果があった。今後も地区育成会の立ち上げを推進するとともに、地区育成会の活動の活性化を図っていく。子どもが少なくなった地域での地域活動をどのようにしていくかが課題。引き続き、あいさつ運動や見守り活動の充実に努める。
2	"	青少年センター運営事業	青少年の非行、被害防止、及び岩出市内の青少年を取り巻く環境浄化を目的に、補導活動、相談活動、広報活動を実施する。	学校、警察との情報交換を密にし、青少年に関する情報の収集に努め、不審者情報など懸案される事項には、パトロールを強化するなど対応。また、青少年センターが事務局の各種団体、学校等構成員で結成した補導委員会の活動として、毎月定期的に市内大型店やゲームセンターなどを中心とした街頭補導及び夏季休業期間中の街頭補導を実施。また、岩出市内・児童生徒を守る協議会委員として、情報交換に努め今後の活動に反映させている。 さらに、不登校など、問題を抱える児童の相談活動も随時実施。	b	継続	補導委員や各種団体の協力のもと、街頭補導・街頭啓発等の実施により、非行防止への成果があった。また、様々な研修会にも参加し情報収集にも努めた。今後は、警察等関係機関との連携の強化を図るとともに、街頭補導の充実のため補導も継続。
3	生涯学習の推進	放課後子ども教室推進事業	放課後に地域の方々の参画を得て、スポーツ・文化活動・地域住民との交流活動等を推進する。	安全・安心な子どもの居場所を設け、地域の方々の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動を推進する。	b	継続	住民の方々の協力を得て、各種の教室を開催し、多数の小学生が参加した。今後も、協力者の確保に努めるとともに、学校との連絡を密にし、進めていく。
4	"	公民館事業	市民の高まる学習意欲に対応した公民館運営に努め、公民館の充実を図る。	市民一人ひとりが適切に学習できる”場”と”機会”の拡大を図り、あらゆる世代に親しまれる公民館活動を展開している。	b	継続	市主催の各種教室や文化協会の活動など、住民ニーズに対応した運営に努めている。今後も、多様化する住民ニーズに対応した場と機会の確保に努める。
5	"	生涯学習振興事業	市民が豊かで、より充実した生活を送るために自発的意思に基づき、自ら進んで学習できる機会を提供する。	文化祭の前夜祭として、岩出市生涯学習を考えるつどいとしてコンサートを実施する。	b	継続	次年度以降も、コンサート等の催しに努める。

平成27年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日)

生涯学習課

総合評価

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
6	生涯学習の推進	根来の子守唄保存事業	「子守唄」を後世に引き継ぎ、地域文化の発展に寄与する。	全国子守唄サミット&フェスタ事業 加盟自治体6市1村の持ち回りにより、全国子守唄サミット&フェスティバルを開催している。 民話・伝承などを活かした地域活性化事業 (1)講座の開催、(2)学校開放週間における「民話・伝承などの学び」開催、(3)歴史講演会の開催	b	継続	根来小学校において、11月の学校開放週間の学校行事の一つとして、授業参観後に「民話・伝承などの学び」を開催したところ、保護者の方をはじめ地域住民の方々の多くの参加をいただくことができた。民話・伝承などを通じて、ふるさとの魅力について知っていただくことができたことは大きな成果であった。ふるさとの素晴らしさについて知ることは大切なことであり、このような取組が継続して行われていく仕組みづくりと人づくりが今後の課題といえる。
7	〃	ねごろ歴史資料館整備事業	ねごろ歴史資料館の建設に伴い、根来寺境内ガイダンス施設としての展示構成と内容について検討し、地域の特色である埋蔵文化財の総合的な公開活用に向けて整備を行った。	ねごろ歴史資料館展示関連業務	b	継続	ねごろ歴史資料館建設に伴い、展示資料の選別及び導線の検討をはじめ、グラフィック等の原稿の作成および構成の検討や説明写真の選別を行った。また、公開のために必要な台帳の作成等の再整理を実施した。今後の対応として、和歌山県教育委員会が実施した調査資料の台帳作成については、長期の期間の整理が必要となる。
8	〃	負担金・補助金事業	競技力の向上と育成、活動の活性化を図るため、スポーツ少年団・体育協会への補助金や県への負担金	市体育協会、市スポーツ少年団、市スポーツ少年団指導者協議会に補助。那賀地方スポーツ少年団指導者協議会、和歌山県体育施設協会に負担を行っている。	b	継続	各種補助金は、青少年の健全育成や生涯スポーツの振興などに成果をあげるよう努める。
9	〃	岩出市市民運動会事業	市民へのスポーツ振興と、レクリエーションの普及・浸透を図り、よりよい人間関係をはぐくむとともに明朗・活発な人間育成に資する事を目的とする。	10月12日(月)体育の日に運動会種目(22種目)並びにスポーツアトラクション(7か所)を実施。	b	継続	参加者数8,931名と、多くの市民が参加して健康増進を図り、市民相互のふれあいと交流を深める絶好の機会を提供するよう努める。
10	〃	岩出マラソン大会実行委員会補助事業	市民及び参加者の健康と体力づくり、生涯スポーツの普及と振興を目的に、マラソン大会を開催する。	一般15キロの部(予定人数600名)、一般5キロの部(予定人数400名)、小学生3キロの部(予定人数600名)、ファミリー2キロの部(予定人数900名)会場並びにコース:根来若もの広場(広域農道スタート～若もの広場ゴール) 平成28年3月13日(日)開催	b	継続	県外からの参加者も多く、参加申込が計画以上の人数(3,008名)であり、岩出市を広くPRすることができた。また、参加者間の交流により、互いにふれあうことが出来、有意義な大会となった。 今後も、会場並びにコースの安全確保と、スムーズな大会運営に努める。
11	〃	スポーツ教室事業	市民のスポーツ振興を図り、健康で明るいまちづくりを推進する。	親子体操教室・ヨガ教室・エアロビクス教室を実施。	b	継続	毎年、内容を工夫し楽しく参加できるよう取り組み、市民の健康維持増進に貢献した。 親子体操教室は、3歳児同士や保護者たちの交流につながり、楽しく運動することができた。 今後も、市民のニーズにあった教室の開催を目指す。

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
12	生涯学習の推進	大会等選手派遣補助事業	スポーツ活動の振興とスポーツ活動団体の育成を図るため、各種スポーツ大会の出場に要する経費の一部を補助する。	市スポーツ少年団及び市体育協会に属する者が大会に出場する場合の経費の一部を補助する。	b	継続	本年度は全国大会7件、近畿大会4件、県大会15件 計26件の派遣補助を行い、今後もスポーツの振興を図ることに努める。
13	文化・芸術の振興	文化祭事業	市民文化の一層の発展と充実を図るため、文化活動の成果を発表する機会を設け、文化活動の振興と普及を図るとともに参加を通じて薰り高い文化への理解を深め、心がふれあう活力あふれるまちづくりを推進する。	日時:平成27年10月31日(土)～11月1日(日) 場所:市民総合体育館ほか 内容:(テーマ「未来へつなごう ふるさとの文化」) ○作品展示 ○芸能発表 ○各種イベントコーナー	b	継続	多くの来場者があり、市民相互のふれあいと交流が図られた。今後も、「ひとりでも多くの市民参加」を目指し、文化協会等に協力を求め、趣向を凝らし新しい企画の取り組みに努める。
14	"	公民館フェア事業	文化教室及び公民館利用サークルによる日頃の成果発表を通じて、人々の出会い、ふれあいの機会をつくり、市民が公民館活動・文化活動に対する理解と関心を深めることを目的とする。	日時:平成28年3月5日(土)～3月6日(日) 場所:市総合保健福祉センター 内容:(「岩出市民ふれあいまつり」と同時開催) ○公民館コンサート ○公民館ギャラリー ○公民館チャリティー	b	継続	文化教室及び公民館利用サークルの成果発表の場及び市民のふれあいの機会をつくることができた。保健推進課と連携を図り、周知に努める。
15	人権尊重の推進	人権啓発事業	人権尊重思想の普及高揚を図り、また、未来を担う子どもたちが心豊かで思いやりのある子どもに育つことを願い市民の人権意識を高める。	人権問題に対する正しい認識を広めるための人権講演会の開催や小・中学生の人権作文集を作成し、市民の人権意識の向上を図る。	b	継続	小・中学生の人権作文集の発行や人権ポスター展の開催、市内各小学校において保護者学級を開設し、引き続き、人権教育・啓発に努める。

平成27年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日)

岩出図書館

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	評価の理由、課題、今後の対応等
1	子ども読書活動推進事業	図書館司書派遣事業	岩出図書館の司書資格を有したスタッフを市内各小中学校図書館へ派遣することにより、岩出図書館と学校が連携し、小中学校における学校図書館の活性化及び読書活動の推進を図る。	週1回のペースで、岩出図書館から学校司書を派遣し、学校図書館の環境整備や児童の読書支援及び学習支援、また、司書教諭・学校図書館ボランティアに対する助言等を行う。	b	継続	平成27年度1学期から司書派遣を中学校まで拡大し、中学校の学校図書館の配架替えや掲示物やサインの設置など、主に学校図書館の環境整備を行った。26年度から学校図書館の環境整備を行っている小学校では、読み聞かせの他に、アニメーション、ブックトーク、調べ学習などを実施する学校が増えた。団体貸出についても、学校での並行読書や調べ学習への支援により、26年度の3倍に増加し、岩出図書館の蔵書活用が進んだ。前年度より学校司書を派遣する日に学校図書館を全クラスが均等に利用できるような時間割を組んでくれる学校が増えたが、その時間をうまく活用できていない部分も見られる。それぞれのクラスが計画的に学校図書館を使って学習できるよう、学校司書が教員に積極的に提案していく必要がある。学校によって支援内容にばらつきが生じないよう、学校司書の間で情報交換を行い、公平な支援に繋げる。学校への団体貸出冊数が3倍に増加したが、中学校への団体貸出冊数があまり増加していなかったため、中学校の調べ学習への取組を積極的に支援することにより、増加を図る。
2	〃	家族ふれあい読書推進事業	家族が子どもと一緒に読書する時間をつくり、「うちどく(家での読書)」することを推進するとともに、家庭力の向上と子どもの読書活動の活性化を図る。	うちどくにおすすめの図書のリストや家族の読書の記録を書きとめる欄を掲載した「うちどくノート」の配布や図書館に おすすめ本を展示するうちどくコーナーの設置を行う。	c	継続	「うちどくノート」の各小中学校への配布及び説明を行い、図書館にはおすすめ本を展示する「うちどくコーナー」を常設している。また、うちどくノートに掲載しているうちどくにおすすめの図書から問題を出題する「うちどくクイズ」を実施するとともに、各小学校から選出された児童の「うちどくの記録」を岩出図書館に展示し、うちどくの啓発を行った。岩出図書館から学校司書を派遣し始めたのをきっかけに、年々「うちどくノート」を活用する学校が増えているが、やはり学校・学年・担任によって温度差がある。「うちどく」に関する学校への周知は事業開始以来行ってきたが、各教員にまで周知できていないと感じることがあるので、それを行うのが急務である。
3	図書館運営事業	図書館利用促進事業	市民が身近にあって、いつでも、どこでも、だれにでも図書館サービスが受けられるように、岩出図書館と分館・分室のネットワークにより、地域密着型の図書館運営を図る。	さまざまなジャンルの蔵書を充実するとともに、分館・分室との情報ネットワーク化の充実を図る。また、DVD上映会、おはなし会、各種体験教室、講演会等の開催を実施し、図書館の利用を促進する。	b	継続	前年度と比較して入館者数・貸出点数・貸出人数とも増加している。特に、総合保健福祉センター図書室の貸出点数・貸出人数、上岩出地区公民館図書室の入館者数が増加している。イベント開催については、前年度に増加していたおはなし会や上映会への参加者数が減少したが、近畿大学生物理工学部の教員による図書館講座や夏休みの宿題に役立つ講座などに人気が集まった。おはなし会や上映会の広報を充実させ、参加者の増加を図る。また、中学生以上のイベントが少ないので、中高生ビブリオバトルの開催により、中高生の参加を見込めると思ったが、観戦者は一般の方が多かったため、中高生の観戦者を増加させるような広報をする必要がある。28年度は岩出図書館開館10周年記念事業など目新しいイベントを計画しているので、新規利用者の獲得に向け、利用促進に努める。特に、駅前ライブラリーと中央公民館図書室の利用促進を図る。
4	〃	図書等購入事業	図書館の役割は、学習や交流の場として生涯学習の推進に大きな役割を果たす地域情報の拠点であり、様々な情報や活用資料などの提供をするとともに、利用者の要望に応じて市立図書館として図書館運営を図る。	一般図書・児童図書及び視聴覚資料(DVD・CD)等、図書館資料の収集を行う。	b	継続	一般図書7,845冊、児童図書3,158冊、参考図書197冊、視聴覚資料DVD100枚、CD100枚を購入し、図書資料の充実を図った。利用者のニーズや社会の動向を把握し、資料収集を行うとともに、関係機関からの情報収集を行いながら引き続き郷土資料を充実させる。

平成27年度教育委員会事務事業評価一覧表(評価期間:平成27年4月1日～平成28年3月31日)

民俗資料館
総合評価

番号	主要施策名	事務事業名	事業の目的	事業概要	総合評価		
					評価	今後の方向性	
1	文化・芸術の振興	資料収集事業	希少な文化資源である根来塗漆器の保護と郷土資料として民具等の収集を目的とする。	常設展観事業で使用する根来塗漆器を購入するとともに企画展等で使用する民具等の収集を行う。	b	継続	根来塗漆器の購入は、平成26年度実績を上回り、平成27年度目標も達成したが、郷土資料収集については、多数の寄贈の申し出を頂くも、既に所蔵しているものもあり、平成26年度実績及び平成27年度目標を達成できなかった。 根来塗漆器については、資料収集事業計画により事業を実施し、展示の入替可能数の確保に努める。また、民具などの郷土資料は小学校の授業でも取り上げられており、教材として役割を果たすことが出来るものを収集し、所蔵点数の充実を図っていく。
2	"	展観事業	市民に郷土の歴史・文化に関心と理解を深めていただくことを目的とする。	○収集資料品展「集まった根来漆器」 会期4月1日～3月31日 ○所蔵品展「くらしを支えてきた道具たち」 会期5月1日～6月1日 ○秋季企画展「鉄砲展」 会期11月1日～11月30日 ○根来塗講座作品展示 会期3月19日～4月11日 ○文化協会作品展示開催 参加6団体	b	継続	所蔵品展・秋季企画展入館者数は、平成26年度実績を上回り、平成27年度の目標も達成できたが、収集資料品展については、平成26年度の実績を上回ったが、平成27年度の目標には達しなかった。また、文化協会作品展示・根来塗講座受講生作品展示入館者数については、平成26年度実績及び平成27年度目標を上回ることが出来なかった。 できるだけ多くの市民の方に興味や関心を持っていただけるよう、関係機関等への働きかけのほか、市ウェブサイト・広報誌の活用等、啓発活動に努める。 ○収集資料品展開催期間中の入館者数39,795名 ○所蔵品展開催期間中の入館者数3,284名 ○企画展開催期間中の入館者数7,510名 ○根来塗講座作品展示の入館者数5,367名 ○文化協会作品展示の入場者数延べ7,922名
3	"	歴史学習講座事業	講演会や歴史講座とあわせて、職員等による歴史学習会を実施し、市民に様々な角度から郷土の歴史や成り立ちについて学び触れ合う機会を提供する。	○歴史講座 ・「旧和歌山県会議事堂での講演について」 ー夏目漱石『現代日本の開化』をめぐってー 第1回:6月21日(日) ・「秀吉の紀州攻めと大坂の陣」 第2回:2月6日(土) ○夏休み子ども歴史学習会 ・「勾玉づくり」 第1回:7月26日(日) 第2回:8月9日(日) ○ふるさと歴史学習会 ・「岩出の歴史と人々の輝き」 ～ひと・もの・ことつながりを中心にして～ 実施日:9月13日(日) ○秋季企画展講演会 ・鉄砲展「紀州と鉄砲」 実施日:11月15日(日)	a	継続	夏休み子ども歴史学習会は勾玉づくり、第2回の歴史講座は秀吉の紀州攻めと大坂の陣を取り上げ実施、予想を上回る申し込みがあり、平成26年度実績及び、平成27年度の目標を達成できた。 勾玉づくりについては、定員を超えての実施となった。内容についても父母・児童から好評であり、受付枠を拡大し引き続き実施する。 歴史講座で、今後も歴史でも人気の高い戦国期のことを取り上げる場合、テーマの検討・抽出が課題となる。 ○歴史講座 第1回 参加者数57名、第2回 参加者数168名 ○夏休み子ども歴史学習会 第1回 参加者数36名、第2回 参加者数36名 ○ふるさと学習会 参加者数31名 ○秋季企画展講演会 講演会 参加者数47名